はじめに

北国の秋が一気に深まり，冬の気配を感ずる頃となりました。平成3年度所報がまとまりましたのでお届けいたします。

本年は，札幌市衛生研究所の設立30年にあたります。このふし目の年に，二つの慶事が重なりました。一つは昨年，札幌冬季ユニバシアードで行った「性別判定法」の技術開発に対し，本年7月に所員3名が名誉ある「札幌市職員表彰」をうけました。また，二つ目は「新生児，乳児，妊婦マススクリーニング」事業への永年にわたる先駆的取組みに対して，本年9月第44回保健文化賞を受賞したことであります。そこでこれを記念して本第19号を保健文化賞受賞記念号として，一部関連記事を加えさせていただきました。今あらためて，今日までたゆまぬ努力を傾けて来ました多くの所員に敬意を払うものでございます。今後，これが全職員の新たな励みになればと念じております。

さてこの一年をふり返りますと，昨年にも増して我が国の国際化が進んでおりますが，衛生研究所の役割もますます増大しております。一つには，増加の一途をたどっているHIV感染症への対応，二つには，大量に輸入される食品の農薬検出問題への対応，三つには地球環境問題への参加など，いずれをとっても緊急でかつ重大な問題であり，衛生研究所はこれらの問題解決に対して国と連携を保ちながら努力して行かなければなりません。

このような状況の中で，私どもは平成3年度から，衛生研究所をより身近かなものとして市民に解りやすく紹介するために，全所員による衛生研究所公開行事をはじめました。幸い地域住民や関係の方々に大変好評でしたが，私どもにとりましても，職員間の最もよい協力関係を培う場となり，大変有意義であったと思っております。

今ここにお示しした記録は，こうした中でまとめたものでございます。どうぞ，ご忌たんのないご意見と変らぬご指導を賜りますようお願い申し上げます。

平成4年12月

札幌市衛生研究所長
菊　地　由生子